

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊熊健一郎
北野正剛

岩崎昭憲
清水一雄

小澤壯治
徳村弘実

北島政樹
東原英二

婦人科と泌尿器科領域に続いて消化器・一般外科領域でも技術認定の第1回審査結果が発表された。前からの懸案であり、まず技術認定制度委員会と審査委員会の各委員、そして会員の方々の精勤と協力の成果と評価しなければならない。その最中、浜松で臨床研修研究会に参加した。周知のように最近の医学教育の中心テーマである臨床研修問題を扱う公的研究会である。新制度が導入され1年が過ぎたが、心配されたマッチングもうまく機能し現場の初期研修も無難に進んでいるという評価であった。今回の主題の1つが2年研修後のいわゆる後期研修で、2年から4年ほどの後期研修の受け入れ態勢とプログラムを各病院で作情報公開すべきとの趣旨の話があった。眼前に迫った課題はまだシステム化されていない後期研修体制の構築であり、大学院との調和の問題である。後期研修は職業選択の自由の点から法的拘束はありえないそうだが、その研修内容は内科や外科専門医取得課程によって裏打ちされることになる。いずれにせよ、一般外科を目指す医師は卒後、初期研修認定に始まり外科専門医、そしてサブスペシャリティの消化器外科、呼吸器外科や乳腺などの専門医という階梯を経ることになる。その最上階に内視鏡外科の技術認定が位置するのか。

さて、内視鏡下手術が開放手術と本質的に大分違うことは再三指摘されてきた。患者への恩恵が大きい内視鏡下手術であるが、その限界はまだ手技的つまり実行可能性という意味の限界を指すレベルにある。開腹手術では実行可能性はほぼ解決済みで、肝癌や乳癌手術のように手術そのものの治療効果の限界を問われることが多い。また、内視鏡下手術に比し開腹手術では外科医は早くに技術的プラトーに達しやすい。プラトー到達者を専門医として認定することは困難でないと思われる。一方、内視鏡外科は野球に喩える不遜を許していただければ全手術の3割程度の打率に過ぎないか。すべてを内視鏡下手術で行うのは見果てぬ夢。今のところ4割を目指すのが実現可能な夢なのか。内視鏡下手術を5割以上にするには相当な技術革新が必要であろう。この辺に内視鏡下手術の技術認定水準の落としどころの難しさが横たわる。

技術認定の業績要件のなかに論文がある。これが不評で技術審査に論文は問われるべきでないとの意見が多い。しかし、内視鏡外科を現場で指導する立場の外科医を技術認定する場合にはアカデミックな視点が必要ではないだろうか。効率化とスピードがしきりに求められる現在の日本。じっくりものを考える姿勢が少なくなったとの指摘があって久しい。子供の理数科離れが目立ち、思考力の低下が調査でわかっている。内視鏡下手術は前述の打率の喩えではないが実に奥が深い。内視鏡下手術の深淵を立ち止まってじっくり見つめるときが必要ではあるまいか。熟考の機会としてもっとも効果的なのは論文であることは申すまでもない。

(徳村弘実)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第10巻 第3号) 2005年6月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%) となります。

2005 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2005, Printed in Japan

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 蔵田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。